

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>第1回の運営推進会議で理念の説明をご家族や地域の方にお話をさせて頂いただけなので今後は、定期的に運営推進会議やあじさいだより等で理念の説明をしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>もっと多くの近隣の方が気軽に立ち寄れるような取り組みを考えていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>職員が『認知症キャラバンメイト養成講座』を受講し地域の方に『認知症サポーター養成講座』を開くなどして地域貢献に繋げて行きたい。現在、管理者がキャラバンメイトの資格を持っている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>前年度の外部評価の改善項目を管理者が中心となり職員会議などで改善に向けた話し合いをしているが計画性に欠けているように思う。</p>	○	それぞれ改善項目ごとに実施計画を立て改善状況を職員会議などで報告し改善に向けた話し合いを定期的に行い全職員が評価の意義と理解に努めたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で年1回ホームビデオ上映を行いご家族や地域の方に日頃の活動報告を行っている。毎回、事業所としての取り組みに対してのご意見・要望などを聞きサービスの向上に努めている。</p>	○	運営推進会議で自己評価・外部評価の公表は行っていますが評価の取り組みについての報告などは出来ていなかったと思います。今後は運営推進委員会で評価の取り組み状況を報告し、ご家族や地域の方の意見を取り入れながらサービスの向上に努めていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>事業所担当者が市の担当部署との連携を行っている。運営推進会議以外では市関係者との交流はないように思う。</p>	○	担当者以外具体的にどのような連携を取っているか解らないところがある。運営推進会議以外にも市の関係者との連携を模索したい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>すでに日常生活自立支援事業の金銭管理サービスを活用されている利用者や成年後見制度を活用されている利用者がいらっしゃいます。ご家族や管理者が申請業務を行っており職員は権利擁護に関する制度の理解まで至っていない。</p>	○	権利擁護の制度の仕組みが複雑であるため理解するのが大変ですが勉強会などで理解を深めたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>日頃から身体拘束や虐待が行われていないかのチェック機能として抑制廃止委員会を設置している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、利用契約書、重要事項説明書など解りやすい説明を心掛けている。(月途中の入退去の利用料などの日割計算や第三者への個人情報提供の同意を得るようにしているなど)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議に必ず利用者の方も出席して頂き意見を述べる機会を設けている。 あじさい苦情受付箱を入り口近くに設置している。 サービス向上委員会が主体となり苦情などに迅速に対応するようにしている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>隔月発行のあじさい便りにてホームでの暮らしぶりや健康状態を担当職員が自筆で報告、他に行事予定などを載せてご家族へ郵送している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議にご家族も出席して頂き意見を述べる機会を設けている。 あじさい苦情受付箱を入り口近くに設置している。 苦情相談窓口の住所連絡先を掲示している。 サービス向上委員会が主体となり苦情などに迅速に対応するようにしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>朝のミーティングや職員会議(毎月1回)などで意見交換の場を設けている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務表作成時、その月の行事予定や受診予定などを勘案して人手の必要なレクリエーションでは通常より1～2名多い体制を取ったりしている。 緊急時は柔軟に対応ができるように努めている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>事業所内での職員の異動は原則行っていないなど職員と利用者が馴染みの関係を築けるような配慮は行っている。ただ離職による職員の交代は年に数回ある。</p>	○	<p>定着率の向上のため職員が働きやすい環境を作るなどして利用者へのダメージを少なくしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に北海道GH協議会の職員研修などに参加しています。研修報告を提出してもらい全職員への周知を図っている。会社経費で研修を受けれる体制は出来ている。	○	内部研修の充実を図りたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は豊平区管理者会議、同区在宅ケア連絡会などに出席しネットワーク作りや連携など出来ている。職員は外部の研修会を通してネットワーク作りが出来ているように思う。	○	職員に関してはまだまだ地域の同業者との交流の機会が少ない。時間的な制約もあるが、同業者との交流の機会を持てるようにしたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩室を確保したり、定期的に懇親会を開いたりして職員のストレス軽減に取り組んでいる。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	昨年度から評価制度を導入。それぞれの実績に応じて給与に反映されるようになり向上心を持って働ける取り組みは出来ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	主に管理者が行っている。まずご本人に見学して頂き、困っていることや不安な事を傾聴し、受け止めながら解りやすく説明を心掛けている。ご本人が見学に来れない時は御自宅などへ訪問させて頂き安心してもらえるような関係を築けるよう配慮している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	主に管理者が行っている。まずご家族の思いに耳を傾け、困っていることや不安な事を受け止め、納得して頂けるよう解りやすく説明をし信頼関係を築けるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご相談を受けたときホームで対応できること出来ないこと説明させて頂き、ケアマネジャーも交え、今利用者が必要とされているサービスを見極めるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人が納得して入居して頂けるよう、何度でも見学して頂きホームの雰囲気を感じて頂けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員がご本人と共に散歩、買い物、趣味などして過ごす時間を大事にしており、共に学び、共に支え合う関係を作るようにしている。 習字が得意な方、手品が得意な方から連日手ほどきを受けています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には面会時や電話、手紙などで本人の状態を伝えるよう心掛けている。 できるだけカンファレンスに参加して頂き一緒に本人を支えていく関係を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	基本情報を元に職員が本人と家族の関係理解に努めている。入居後も行事などにご家族も一緒に参加して頂いたりしてより良い関係の継続に配慮している。	○	ご家族と疎遠関係が続いている方に対する支援が課題である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係が途切れない様積極的に支援している。 馴染みのスーパーや喫茶店へ出かけたり、馴染みの方(友人)の来訪や電話など本人の思いを大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係は把握している。利用者同士の関わり合いをできるだけ職員は見守るようにし必要に応じて職員が介入するようにしている。	○	利用者同士で支え合える関係作りに配慮していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居された後も時折転居先に訪問させて頂いたり、退居された方のご家族方から今でもお米を購入させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員のケアの質の向上に向けて研修会議を開催し、利用者との関わりの中から希望や意志を引き出して、職員間で情報提供に努めている。困難な場合でも密に接して本人主体の検討に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活状況及び生活歴について、前任者や家族から情報提供を受けフェイスシートを作成している。独居生活長く、家族及び地域の交流が少なく入居者の情報入手は困難な場合があるが、日頃の会話の中から少しずつヒントを得て過去の生活状況を推察する努力を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	起床・就寝・日中の心身状態等をチェック表をもとに把握し、その日一人ひとりの体調に合わせた活動を実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者様の担当職員がアセスメント・評価・計画作成(原案)の一連の作業を行い、カンファレンスを実施。計画作成にあたっては利用者・御家族の意向を取り入れ本人が出来る事に重点を置いたサービス計画書を作成している。	○	サービス計画書作成後介護支援専門員と支援状況の進行状態の検討を次期カンファレンスまでに月1回実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的に3ヶ月毎に評価・アセスメントを実施しているが、入居者に大きな変化が見られた時はその都度見直しを行い御家族及び医療機関との連携を取っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人別の介護記録に日々の変化・利用者の言葉などを記録し全職員が情報を共有しながら、評価およびサービス計画書作成時に活用している。 センター方式の導入は行っていない。	○	センター方式の導入又はアセスメント様式のの見直しを考えたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者以外の御家族等へのサービスは行っていない。通院介助に御家族様が困難な場合は対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域運営推進会議の中で、町内会役員様・民生委員様・ボランティア様との情報交換や協力態勢を築いている。町内会運動会・夏祭り・盆踊りへ参加したり、町内会の古紙回収事業への協力を行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護保険以外のサービス「必要に応じておむつサービス」や「訪問理容」等を活用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域運営推進会議に包括支援センター担当者へ出席を依頼し権利擁護に関する情報提供して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療・協力医の他に利用者・御家族の希望するかかりつけ医と連携を取り、情報を伝え適切な医療が受けられるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医と連携し、御家族を含めた相談・助言を受けられる体制を取っている。受診時の付添、御家族との同行は必要に応じて行っている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職場に看護師はいなく、訪問看護は利用していない。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は、利用者・御家族を含めて主治医と話し合い、利用者が安心して入院治療出来る体制を取り、入院中の見舞いを適度に行う中で、医師との連携を行い早期退院に向けて相談を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化が予想された時点で利用者・御家族・かかりつけ医と連携を取り今後の方針を検討し、本人の意思を尊重しながら、ホームとして出来る限りの支援を行っている。ターミナルケアは行っていない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルケアは行っていないが、それに向けた検討や準備はかかりつけ医とご家族との連携のもと介護職として出来ることを行っている。	○	職員一同で研修を密に行いかかりつけ医とともにチームとして取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>転居先の担当ケアマネージャーや相談員に事前に情報を伝え利用者様が安心して転居出来るような支援を行っている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>お一人お一人の尊厳を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけや関わりを心掛けている。個人情報の取り扱いに関しては入居時に第三者への情報提供の同意を頂くなどしている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定が出来る方には意思確認を必ずするようにしている。全盲の方がいらっしゃるのでゆっくりと解りやすい言葉掛けで意思の確認をしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々の生活リズムを尊重し、個別の希望に添って買い物・家賃の支払いなど対応している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>馴染みの理美容院を利用している方はいない。現在は訪問美容を利用しそれぞれの希望に沿った支援をしている。外出時には化粧される方もおり洋服は本人と一緒に選ぶようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物担当の方、料理の下ごしらえ(もやしのヒゲ取り・皮むき)担当の方、配膳担当の方、後片付け・食器洗い・拭き担当の方と那个人が出来ること出来ないことを見極め食事を楽しめるよう支援している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品に関しては本人やご家族の意向を踏まえ個々に可能な限り対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1日の排泄パターンをチェック表で把握しトイレでの排泄を介護計画に盛り込みながら支援している。夜間ポータブルトイレやおむつ交換の方も日中にはできるだけトイレでの排泄を促し、誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は基本的には週2回の固定ですが柔軟に対応しています。(午前・夜は対応できていません)入浴を拒む人には言葉掛けや時間を置いて再度の声掛けを行っている。異性の介護を嫌う方には同姓が対応するようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜、眠れない方はかかりつけ医に相談したり、散歩・足浴や寝具(リネン類)の定期的な交換などして安眠できるような支援をしている。一人ひとりの生活習慣を把握し、昼寝の時間も設けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の皆さんは家事やゴミなげ、植物への水やりなど得意分野を活かしながら過ごしています。	○	一人ひとりのその日の状態に配慮して決して無理はせず強制にならないように気を付けて行かなければならない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の金銭管理能力を維持する為の支援は来ています。御家族が金銭管理されている方はご家族にお願いして本人が買い物ができるよう小額を本人に渡して頂いており、一緒に買い物に行き、本人が希望するものを購入したりしています。家賃の支払いをされている方もいます。金銭管理が出来ない方は社会福祉協議会の『金銭管理サービス』を利用されています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日課として近隣の公園への散歩を行っている。他に食材の買い物や個別に行きつけの場所等への外出の支援は来ています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月ではないが外出行事があり、普段いけないところへ行ける支援を行っている。(花見・果物狩り・お祭り見物など)ご家族も同行されることもある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々に、携帯電話を持っている方はいない。居室にも電話は無いので、ホームの電話を使用して頂いている。自ら電話をする方はいないのですが職員にお願いする方はいるので、プライバシーに配慮し職員が取り次ぎ自室にて使用されています。ほかに利用者の知人やご家族へ年賀状・暑中見舞いなど出す支援もおこなっています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や友人の方が訪問された時には自室及び居間にてゆっくりした時間を過ごしていただけるよう支援をしています。基本的に、24時間いつでも面会できます。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	[抑制廃止委員会]を設け身体拘束ゼロに向け職員は勉強を重ねています。	○	「身体拘束ゼロ」に向けた取り組みは常に考えて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>66 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>夜間帯のみ防犯の為施錠している。建物の構造上エレベーターホールが出入口となっている為、玄関を探される方もいる。鍵をかけないケアの認識は全職員持っている。</p>		
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は所在確認をさりげない言葉かけにて行っている。夜間帯は定時の訪室を行い所在や様子を見守っている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>一人ひとりの状態を把握し注意の必要な物品の扱いに取り組んでいる。(はさみを使用する、裁縫ができる、果物の皮むきができるなど)。又、台所で使用する包丁は夜間帯は鍵をかけ保管それ以外の物品は事務所管理を行い、薬品、洗剤等は鍵の掛かる場所にて保管している。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止に向けての話し合いは毎日の申し送りにて確認し合い、はつとした事ひやとした事は報告書を提出して事故防止に努めている。緊急時対応マニュアルは設置している。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>救命講習を不定期ではあるが行っている。しかし、職員の入れ替わりもあり、常に職員全員が講習を受けている状況ではない。防災・緊急時対応マニュアルあり。</p>	○	年1回は救命講習を行いたい。内部研修でも定期的に行いたい。
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回の自主防災訓練、年1回の当ビル合同の防災訓練を実施している。様々な場面を想定して訓練を行い、防災委員会が中心になり検証している。利用者さまにも参加していただくことにより日頃から防災の意識をもっていただくようにしている。年1回の合同防災訓練では消防署の方から実際に消火器の使い方を教えていただき、利用者・職員も疑似体験をしている。地域の方にも運営推進委員会を兼ねて見学して頂き災害時協力して頂けるよう働きかけている。防災・緊急マニュアルあり</p>	○	常に、危機管理意識を持って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居の際、ご家族にはご本人がホームで生活する上で予想されるリスクについて説明している。又、本人の状態の変化を常に把握しそれに伴って起こりうるリスクの説明も心掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々の血圧・体温・体調変化は記録し、申し送りの際必ず報告し管理者が中心になり往診医と連携をとりながら柔軟に対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人情報ファイルに個々の薬剤情報がファイルされておりいつでも確認できるようにしている。薬の変更の際には受診・往診記録に記載し管理者からの報告もあり又申し送りの際にも報告される。	○	誤薬防止にむけ、常に声だし確認、視認確認、飲み込み確認を行ってきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握し便秘予防のため適度な運動(体操・散歩)や牛乳、ヨーグルトなど摂って頂いたりしているがかかりつけ医の指示のもと下剤に頼っている場合もある。	○	下剤に頼らずに自然な排便を促すため食物繊維・乳製品を積極的に摂取して頂きお腹のマッサージなど積極的に取り組んでいきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	2ヶ月に1度の訪問歯科医の指導のもと一人一人に応じた口腔ケアを毎食後行っているが拒否がある方に対しての口腔ケアがおろそかになったりや自分で口腔ケアをされる方の確認が徹底出来なかつたりと問題点はある。	○	全職員が口腔ケアの重要性を認識しなければならない。食事を安全にそして美味しく食べて頂くために勉強会を開き口腔内の清潔保持に努めて行きたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日食事量・水分量はチェックを行い摂取状況を把握している。昨年、栄養士のもと個々に摂取カロリー計算を行い体調管理に努めている。現在、栄養士が退職した為、かかりつけ医からの助言も頂きながら料理の本(カロリー、糖尿、減塩)などを元に献立を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルがあり感染予防委員会が中心となり感染予防に努めている。来訪者にも消毒などの協力を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理用具は毎晩消毒液につけ業務の一環として衛生管理を行っている。食材に関しては特に夏場の生ものの使用は新鮮なもの以外は避け必ず火を通すよう徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の構造上マンションのように感じ、気軽に出入りできる雰囲気ではないため玄関先に花を飾ったりプランターに花や野菜を植えたりして工夫はしているが、まだまだ敷居が高いように思う。	○	玄関先にベンチを置くなどして様々な工夫を今後も続けて行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れた飾り付けや花々を置き採光にも配慮している。トイレにはカーテンを設置しプライバシーにも配慮をしている。共用空間が狭い為、家具や食卓、テレビ、ソファなどの設置に苦慮しています。	○	今後も限られた共有スペースでの心地よい空間作りに皆さんの意見を取り入れながら取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間が限られているため一人ひとりの居場所の確保が難しい時がある。利用者同士でソファの取り合いになることもあり、職員が言葉がけでさりげなく誘導してその場を取り繕うこともある。	○	限られた共有空間での一人ひとりの居場所づくりに限界もあると思います。利用者がストレスにならないよう外出支援も含め、個々の関わりに配慮していきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際に、ご本人とご家族へ、本人が使い慣れた物、馴染みの物をお持ちいただくよう勧めています。そして本人が使いやすいと安心して過ごせるよう配置は本人と相談しながら職員と一緒にしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度・湿度計を設置し温度調整に配慮している。(冬季には暖房機を使用するため加湿器を使用、夏場にはこまめに換気をしている。)</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>建物の構造上安全に配慮した造りにはなっていないところもあるが、安全に生活出来るよう手すりやスロープを設置し動線には物を置かないよう工夫している。一人ひとりの身体機能を見極め自立した生活を送れるよう居室内の住環境にも配慮している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室のドアに利用者の名前の札を掲げたりトイレの表示、お風呂の表示を行って混乱を防ぐ工夫を行っている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前やベランダで利用者が花を飾ったり野菜をプランターで育てたりして楽しんでいる。夏から秋にかけては野菜の収穫の喜びを味わって頂いている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当ホームは閑静な住宅街に位置し、ホームの前には精進川が流れていてその川を囲むように広い公園となっています。公園の池では毎年のようにカモの子育てが楽しめます。こうした自然豊かな場所でゆったり、和やかに楽しく過ごして頂きたいと思っております。又、地域の行事には必ず参加して近隣の方々との交流も深めています。